

道徳の時間 教科化！

平成30年度小学校 平成31年度中学校

いよいよ教科化となります。今回は、道徳科学習指導要領の基本的な理解と実際の指導案作成について解説します。



学習指導要領の基本的な理解

特別の教科となることで、「変わること」と「変わらないこと」があります。

変わること

検定教科書の導入



検定教科書が導入され、教科書を基にした授業が展開されます。

数値による評価ではなく、成長の様子を記述式で行います。また、「国や郷土を愛する態度」など、個別の内容項目ごとの評価は行いません。



評価の充実



内容項目の整備

内容項目が系統的に整備され、キーワードが示されたことにより、非常にわかりやすくなりました。指導する際には、内容項目を意識するだけでなく、各学年の内容項目の違いを意識すると、指導すべきポイントが見えてきます。Aー(4)個性の伸長を例にします。(波線が違い)

小学校1・2年生 自分の特徴に気付くこと。

3・4年生 自分の特徴に気付く、長所を伸ばすこと。

5・6年生 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。

変わらないこと

心情に偏った授業、いわゆる「読み取り道徳」からの脱却が求められます。ねらいとする道徳的価値を自分との関わりにおいて捉えることが必要です。「考える道徳」「議論する道徳」を意識した指導方法が重要です。



「考える道徳」「議論する道徳」へ



道徳教育の要として

1単位時間の道徳授業で子どもの大きな変容はありません。道徳科の授業は、道徳教育の要である。

全体計画である“別葉”を活用した、意図的・計画的な道徳教育の推進が一層求められています。

指導案の作成(実践事例から)

どのような項目で指導案を作成していくのかを紹介していきます。様々な形式がありますが、室蘭市教育研究所道徳教育チームとしてのおすすめが以下の指導案形式です。無理なく、無駄なく指導案を作成できます。指導案を基に紹介しますが、指導案は本稿のために一部を修正・簡略化しています。

第四学年 道徳科学習指導案

1. 内容項目

規則の尊重【Cー(12)】 約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

2. 教材名

「雨のバス停留所で」(光村図書)

3. 主題名

きまりを守って

内容項目をもとに、考えさせたいことをより端的に書きます。

4. 授業のポイントと指導観

- ねらいとする価値につながる行動を揺さぶるような問いを中心発問に据えることで、多様な意見の交流を促し、価値理解を深める。

授業者のこだわり、指導上の工夫、子ども達に考えさせたいことを書きます。

5. 本時について

(1) 本時のねらい

- 見えないルールについて、気づき、守ろうとする態度を育てる。

(2) 本時の展開

興味関心を高め、価値への方向付けを行っています。

	学習活動	留意点
導入	○課題への焦点化を図る。 世界の学校には、色んなルールがあります。 ・自宅から持ってきたものを、他の生徒に売ってはならない(ケニア) ○学習課題を確認する。 きまりについて考えよう	・世界の面白い校則について、穴埋め形式で紹介する。きまりには作られた理由(意義)があることを伝え、課題への焦点化を図る。
展開前半	○教材を読み、考える。 バス停の前に走って行ったよし子は、何を考えていたでしょう。 ・思いやり ・周りをみる力 ・きまりを守ろうとする意識	・雨が降っていたこと、列の先頭が空いていたことをふまえて問う。
展開後半	○自分のことについて考える。 見えないルールに気づき、守るために必要な力や意識は、なんですか。 ・周りをよく見る力 ・みんなが良くなるようにするにはどうするか、という意識	展開後半は、教材から離れ道徳的価値を一般化させます。 ・よし子と比較しながら考えるように促す。また、学習で心に残ったことを促し、価値理解をふまえた人間理解について考える時間を保証する。
終末	○学習を振り返り、教師の説話を聞く。	・身近な「見えないルール」について話す。

(3) 評価

- 見えないルールについて、気づき、守ろうとしていたか。

余韻を残し、道徳的価値の確認や意欲化を目指します。